

特別の教科 道徳

道徳的価値の理解を基に、自己の（人間としての）生き方について考えを深める授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ねらいとする道徳的価値や児童生徒の実態等から、児童生徒に何について考えさせたいのかを教師が明確にして授業を構想する。
- 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、児童生徒が道徳的諸価値を理解できるようにする。
- 登場人物の言動を自分に置き換えて考えさせたり、1人1台端末で集計したアンケートを活用し身近な出来事等を想起させたりして、児童生徒が自分との関わりで考えることができるようにする。
- 児童生徒の実態に応じて、板書や発問等を工夫するとともに、他者と対話したり協働したりして様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができるようにする。
- これまでの自分を振り返ったり、これからの生き方を見つめ直したりする場面を設定することにより、児童生徒が、自己の（人間としての）生き方について考えを深めることができるようにする。
- 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかという点を重視して学習状況を見取り、評価につなげる。

※__は小学校、（ ）は中学校

生徒の実態を踏まえ、生徒が道徳的価値について多面的・多角的に考える学習の例

中学校第3学年 主題名「法やきまりの意義」『遵法精神、公德心 C-（10）』
教材名 「二通の手紙」

<あらすじ>

元さんは動物園の規則を知っていながら幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、姉弟の母親からは感謝されることになったが、規則を破って入園させたことから大騒ぎとなり、その結果、停職の懲戒処分を受けることとなった。

<生徒の実態と教師の願い>

規則を守ることが大切であるという意識はもっているが、「守るべきだと言われているから」という他律的な捉えや、「守らない人もいるから」などの理由で自分本位な行動をしてしまう生徒もいる。中学校卒業に向け、法やきまりが自分たちを守るだけではなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることや、それを遵守することの大切さについて考えさせたい。

<本時のねらい>

法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。

懲戒処分通知書



内容項目の系統性ある指導内容に基づいて、生徒の実態等を踏まえ、ねらいを設定します。①

学習活動

(○は発問例)
(◎は主発問例)

<導入の場面>

本時の道徳的価値に関わる事前のアンケートを基に問題意識をもつ。

<展開の場面>

教材を読み、話し合う。

○元さんは、どのような気持ちで姉弟を入園させたのでしょうか。

◎元さんが、二通の手紙から「この年になって初めて考えさせられ」たのは、どんなことでしょうか。

○規則は何のためにあるのでしょうか。

<終末の場面>

本時の学習を基に自己を振り返り、考えたことを友達と交流する。

T：元さんは、どのような気持ちで姉弟を入園させたのでしょうか。

S1：弟を思う姉の気持ちに同情し、どうしても希望を叶えてあげたかったのだと思います。

S2：入園終了時刻は過ぎたけれど、これまでの経験から、少しくらいなら大丈夫だろう、と考えたと思います。



T：元さんが、二通の手紙から「この年になって初めて考えさせられ」たのは、どんなことでしょうか。

S3：感謝の手紙を読んで、親子に喜んでもらったのだから、仕事を辞めることになっても悔いはなかったと思います。

S4：懲戒処分の通告はあったけれど、自分のしたことは間違っていなかった、と考えたと思います。

T：自分はよいことをしたと考えていたのに、元さんはなぜ自分から仕事を辞めたのでしょうか。

S5：生きがいである仕事を辞めるほど、自分のしたことを後悔したからだと思います。

S6：私も、親子には喜んでもらったけれど、運がよかっただけで、重大な事故につながったかもしれない、と考えたからだと思います。

S7：その時の感情に流されて判断を誤ってはいけなかったと考え、本当の意味で、規則を守ることの大切さについて考え続けていると思います。

【評価の視点】（発言、ワークシート）

- 元さんの心情を考えるを通して、法やきまりを守ることに多面的・多角的に考えている。
- 法やきまりを守ることに、自分との関わりで考えている。

登場人物の状況に共感し、そのときの気持ちを考えることのできるような発問を行うことで、生徒が自分との関わりで考える手立てとします。②③

道徳的価値に関わる考えを想定して発問を行うことにより、生徒が道徳的価値に向き合い、多面的・多角的に考えることができるようにします。②④

事前に実施したアンケート結果等を踏まえ、意図的な指名や、生徒の発言をきっかけとしたゆさぶりの発問を行うことで、生徒一人一人の深い学びにつなげます。③⑤

評価する場面や視点を明確にし、生徒の発言や記述から変容を見取り、評価につなげます。⑥

